

所属・資格 英文学科・准教授

申請者氏名 前島 洋平

研究課題		1930年代の英国小説研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>石塚久郎氏が『病短編小説集』(2016)の巻末で指摘しているように、「モームと医学の本格的な研究はまだ手つかずのまま」(p.310)な状態が続いている。文学と病の関係を考察する研究が一般的となった現在、モーム作品についても同様の視点からの分析が求められる—</p> <p>本研究テーマの取り組みの一つとして前年(平成30年)度に行った研究内容(モームとワイルドの演劇作品を結婚制度の点から分析)を深める。伝記等の資料をとおして同性愛に関する両者の考え方を把握し、それが各自の作品にどのように表現されているか検討する。</p>
	研究の結果	<p>ワイルド投獄に衝撃を受けたモームは、同性愛に関する言動を慎んだと考えられる。ただし、それはイギリス国内の場合であり、セリーナ・ヘイスティングス(2009)が明らかにしたように、フランス南部の別荘でそのような関係を楽しんでいたことを思わせる決定的な写真が残されている。</p> <p>モーム自身も短期間にせよ結婚を経験して一児に恵まれたが、結婚制度には懐疑的だった。永続的な愛情を信じていなかったことに加え、制度が人間を縛るものである以上、彼はそこに大きな意義を認めることができなかった。彼の結婚観は短編作品でしばしば扱われる主題であり、とくに国外を舞台とする作品においては、年齢や階級が大きく異なる人物との身分違いの結婚や姦通などの、本国の結婚制度を揺るがす存在として表現されることが分かった。</p>
	研究の考察・反省	<p>モームは作家としての活動期間が長かったため、短編小説でも執筆年代によって結婚観に変化が見られるか検討したり、彼の長編小説や演劇作品に描かれる結婚制度との比較まで広げて、議論を展開する必要がある。また、前年度の積み残しであった伝記等の資料の読み込みを継続することによって、作家の背景や時代考証の視点も取り入れることができる。本年度はモームの短編作品に描かれる結婚の様相を考察するにとどまったので、上記の反省を今後の課題とする。なお、本年度の研究結果は次項の「研究報告」のなかで一部を発表した。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>日本モーム協会第18回春季講演会 「わたしの英国在外研究」 2019年6月23日/東洋大学(白山キャンパス)</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		